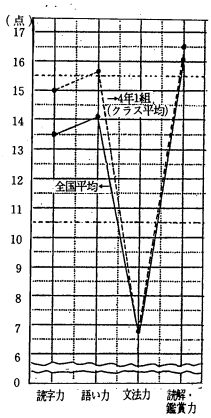
〈資料2〉読書力診断検査・分野別平均得点グラフ



(二) 第一次検証授業

〈実践Ⅰ カブトガニ〉

(1) 教材について〈詳細は略〉

一字下がりになっている形式段落については、ほぼ全員の児童が理解している。「カブトガニ」は九つの形式段落から成り、四つの意味段落を構成する。③の段落をのぞいては、一つの段落が二文から三文で構成されている。

(2) 中心話題を考える

それぞれの段落が何のことについて述べているかを考えて、「○○のこと」という書き表し方でノートさせた。これを全体で話し合った結果、次のようになった。

①住んでいる場所のこと。
②様子のこと
③大きなひみつのこと
④生きつづけてきた理由のこと
⑤せいしつがおとなしいこと
⑥食べ物のこと
⑦たまごの産み方のこと
⑧へってきたこと
⑨守る運動のこと
(①〜⑨は形式段落番号)

(3) 要点をまとめる

それぞれの段落の中心話題を示す語句は、各段落のキーワード的なものともいえる。段落の中心話題が分かれば、要点をまとめる手がかりになってくる。教科書の「学習の手びき」では、③の段落の要点を「カブトガニは、二億年も前から形を変えることなく生き続けてきた動物だ」とまとめて、要約の仕方を示している。これを参考にして、他の段落の要点を、中心話題をもとにまとめさせた。問題となったのは、②の様子のこと、⑤⑥⑦の理由のまとめ方である。それは、段落内のいくつかの文から言葉を選び組み合わせるからである。要約の手順を教えることも含めて、この学習は、児童と教師の共同作業という色合いが強くなってしまった。

(4) 段落相互の関係をまとめる。

文章全体を大きく四つに分けようと指示した結果は、次のようになった。

四つに分けた者――――十八人
四つにならなかった者――三人
記入なし――――――五人

○ まとまりを考えていく時の手がかりになる言葉として、

次のようなことが……
一つは、
二つ目は、
三つ目には

がある。ここに着目して、④⑤⑥⑦のまとまりを見つけた者が十二名いる。

○ ⑧⑨の段落については、述べている視点の違いに気付くことにより、まとまりがとらえやすい。⑨の段落への接続語「そこで」からも、⑧の内容が⑨へつながっていくことが分かる。言語教材「つなぎ言葉」を学習した直後であるにもかかわらず、十五名の正答者しかいなかった。

○ 児童は大きなまとまりに分けるとき、はじめ・なか・おわりという大体の構成を考える。それで、①の段落を話題提示の段落と考えた者は、十四名と多い。③の段落の中心話題をみると、③で話題が転じていることに気付くはずであるが、この場合は残念ながら、中心話題は意味段落をとらえるのには生かされていない。

〈実践Ⅱ、キョウリュウの話〉

(1) 教材について〈詳細は略〉

文章構成上からは、カブトガニの展開と類似している。中心話題・要点・段落のまとまりのとらえ方は、カブトガニの学習をもとに進めていくことができるものと考える。二十の形式段落から成り、六つの意味段落を構成する。

(2) 教師の働きかけ

一人一人の児童の活動を主体にして、中心話題・要点・意味段落をとらえさせるために、次のような教師の働きかけを考えた。

○ 各段落の中心話題を考えていく視点として、「地球の主人公として栄えていた」という冒頭の段落の要点をもとにする。

○「なぜでしょう」という問いかけの文と、その理由を述べている部分に気付かせる。

○「ところが」で、これまで述べてきた事柄と異なる内容の展開を予想し、まとまりを考える手がかりとさせる。

○「そのわけ」の指示内容を考えさせることにより、つながりをとらえさせる。

(3) 中心話題をとらえる〈略〉

(4) 段落相互の関係をまとめる

中心話題をもとにして、段落相互の関係を調べさせた結果、次のようになった。(資料3)

○ 本教材には、説明文の基本的な型「問いかけの文―その答え」があり、答えの述べ方も、まず・つぎに・それからと挙げている。これらは、「カブトガニ」での理由の述べ方と似ており、「栄えたわけ」とまとめることができた者が、十四名いる。

○ もうひとつの大きなまとまりである「ほろんだわけ」は、十五名がとらえている。その際、「ところが」という言葉があるからここから話が変わる、⑮の段落の「そのわけ」というのは⑭の段落の内容を指し、⑭は⑮へつながる、ととらえている。

○ 文章全体を見通させて、いくつのまとまりになるかを考えさせると、

五つのまとまり――――八人
六つのまとまり――――十五人
それ以外のまとまり――三人

となった。この場合、一番問題にな